

学番	17	県立新津工業高等学校
----	----	------------

令和 7 年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・日本独自の匠の技と現代的技術を兼ね備えた技術者の育成と地域産業を担う人づくり ・健康の増進と体力の向上を目指す人づくり ・他者を思いやり、多様性を尊重する人づくり ・新たな時代を切り開くために必要な倫理観にあふれる豊かな人間性持つ人づくり 	
三つの方針（スクール・ポリシー）		
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	<ol style="list-style-type: none"> ①次世代の産業界の発展を担う、情報社会に対応した知識・技術と匠の技を習得し、活用できる力を育成します。 ②主体的に工業的な課題を発見するとともに、課題解決に向けた方策を考え、実践する力を育成します。 ③ものづくりをとおして、他人を思いやる気持ちや多様性を受け入れて協働し、新たな価値を創造する力を育成します。 ④地域の産業界の発展を担うために必要な職業観や勤労観、工業技術者としての倫理観や態度を育成し、地域を大切にする心を育成します。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	<ol style="list-style-type: none"> ①ものづくりに必要な確かな学力、高度な技術の習得及び課題の発見とICTを活用し解決する実践力向上に向けて取り組みます。 ②地域の企業や高度熟練技術者等と連携しながら、実践的な実習により実技を重んじて取り組みます。 ③製品を使用する人の気持ちを考えることで、創意工夫により新たな付加価値の創出に取り組みます。 ④キャリア教育をとおして、望ましい勤労観・職業観及び地域を大切にする心を育む学習に取り組みます。 ⑤身に付けた知識・技術の証として、資格取得に向けて取り組みます。 	
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	<ol style="list-style-type: none"> ①「ものづくり」に強い興味、関心があり、ものづくりに必要な力の向上に意欲のある生徒 ②創意工夫して主体的に判断し、問題を解決しようとする生徒 ③他者の意見を謙虚に聞き、協調して行動できるコミュニケーション力のある生徒 ④学習のみならず、部活動等を通して様々な文化に触れ、心身の健康を維持し、体力を向上させようと意識し、実践する生徒 ⑤身に付けた知識・技術を活かして地域産業界の発展を目指す生徒 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
進路指導部と各学年団で連携し、進路希望実現に向けたキャリア教育に取り組んだ。3年生は早期に就職内定を得ることができた。 基礎学力の定着を図るために生徒の学びが深まるよう授業改善と教え方に工夫した。 地域に貢献する活動が進んでいることや、工業系コンテストの成績及び資格取得状況において一定の成果を得られた。	1 規範意識のさらなる向上及び基本的生活習慣の定着	(1)挨拶と高校生らしい身だしなみを習慣化する。 (2)社会ルールを遵守する。
	2 希望進路の100%実現	(1)進路相談、企業訪問活動を充実する。 (2)3年間をとおした進路指導を行う。
	3 基礎学力の定着	(1)わかりやすい授業に向けて工夫する。 (2)学習習慣を身に付ける。
	4 部活動・生徒会活動等の充実	(1)生徒の部活動加入を奨励する。 (2)様々な活動を通じて人間性を高める。
	5 人権意識の育成	(1)互いを尊重し、協力し合う学校を実現する。 (2)教員研修に励み専門性の向上を図る。
	6 地域の協力のもと、高度なものづくりを目指す学校づくりの推進	(1)工業実習の改善・充実を推進する。 (2)地域連携をさらに推進する。 (インターンシップ、地域イベントへの参画等)

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
1	(1)	全職員で年3回全校一斉の頭髪服装検査を実施し、生徒に高校生らしい身だしなみが身につくよう指導する。(生徒指導)	A	A	A
		年2回「いじめ見逃しゼロスクール運動」として全職員及び規律委員の生徒によるあいさつや声かけをとおして、基本的生活習慣の定着やいじめを許さない生徒集団を育成する。(生徒指導)	A		
	(2)	交通安全運動として、春・秋に全職員が通学マナーを指導し、社会のルール遵守を身につけさせる。(生徒指導)	A	A	
		本校の生活指導の基準を示している「ともに歩む」を配布し、それに則って家庭と連携しながら指導に当たる。(生徒指導)	A		
		《いじめ対策》定期的に「学校生活振り返りアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努める。また、SNS授業等をとおして、インターネットの適切な利用方法を身につけさせる。いじめ認知時には、組織的な対応でその解決に取り組む。(生徒指導)	A		
		分掌等と連携して、高校生としての身だしなみやマナー等に関して適切に対応する姿勢を身に付けさせるための指導を行う。(1学年)	A		
2	(1)	各種説明会や諸会議を通して、また企業、学校と連絡を取りながら今年度の生徒にとってより効果的な情報を収集する。集めた情報を活用して、進路相談等を充実させる。(進路指導)	A	A	A
	(2)	進路行事を充実させて生徒に主体的に進路を考える機会を設けるとともに、進路目標に向かって学習や資格取得に取り組む習慣を身に付けさせ、社会で自立できる生徒を育成する。(進路指導)	A	A	
			これまで進めてきた進路に関する指導のまとめとして、生徒の希望進路に応じた具体的で適切な進路指導及び支援を行う。作文指導を定期的に取り入れ、文章を書く力を育て、それを基礎として面接に活かすように指導する。(3学年)	A	
3	(1)	単元ごとに学習プリントを活用して授業理解を深め、基本事項、基礎学力の定着を図る。(国語科)	A	A	A
		基礎的事項に関する小テストを繰り返し行い、定期テストで知識の定着を確認する。(地歴公民科)	A		
		既習事項の確認を重ねて授業を進める。プリント等を用いることで演習量を増やし、基本事項の確認と基礎学力の定着を図る。(数学科)	A		
		読み書きを重視し授業に臨む姿勢を身につける。授業導入で、教科書を読み、展開、まとめにいたるまでノート等を丁寧にとる指導を徹底する。具体的には年間を通して重要語句、記号、数式をしっかりと定着させるためにドリル学習を実施する。(理科)	A		
		単元毎の内容をプリント等で繰り返し練習させ、定着を図る。(英語科)	A		
		運動を通してのチームワーク作りに努め、協調性を育成する。(保健体育科)	A		
		唐時代や六朝時代の楷書及び王羲之の行書の臨書を通して楷書美、行書美を学ばせる。(芸術科)	A		
		創作を通して自己表現の楽しさを学ばせる。(芸術科)	A		
	鉛筆による明暗や形の基礎的なトレーニングにより、見る力を養成する。(芸術科)	A			
	身近な素材を使つての、形や配色の基本練習により表現力を高める。(芸術科)	A			
		身近な資料の提示や実験実習を多く取り入れて興味・意識を高める。(家庭科)	A		
(2)	長期休業中はもちろん、普段から適宜家庭学習課題を出し、学習習慣の定着を図る。(国語科)	A	A	A	
	定期的にニュースや時事問題に関する発問や解説を行い、社会事象への理解を深める。選挙権の内容など、政治的教養を育む教育を実施する。(地歴公民科)	A			

		授業ノートを定期的に確認し授業に集中する態度を養い、課題を出すことで家庭学習の習慣を身につけさせる。(数学科)	A		
		系統的な理解をするために、小テストを実施して基礎的な内容を定着させる。また、実験や観察を多く実施し、日常生活や工業分野と科学のつながりを実感できるようにする。(理科)	A		
		定期的に単語テストを行う。 学習方法等を具体的に示し、家庭での学習も促す。(英語科)	A		
		マラソン大会に向け、持久力を強化し、体力の向上を図る。(保健体育科)	A		
		創作を通して、自己表現する。見る力、表す力を養成する。(芸術科)	A		
		单元ごとに学習プリントを記入、提出させることで、プリント使った学習習慣を定着させる。(家庭科)	A		
4	(1)	部活動を積極的に推奨し、達成感と自己肯定感を育む。(生徒会)	A	A	A
	(2)	生徒会活動、学校行事、部活動を通して集団生活における望ましい人間関係を育成する。(生徒会) 目標を持たせ、その達成のため地道に努力する忍耐力を育成する。(生徒会)	A	A	
5	(1)	各学期に1回、同和教育の視点に立った人権教育を、各ホームルームで実践する。(人権教育・同和教育推進委員会)	B	B	B
	(2)	外部講師による、全校生徒及び職員対象の人権教育に関する講演会を開催する。(人権教育・同和教育推進委員会) 教員研修会を年2回(現地研修、校内研修会)行い、差別の実態に学び、生徒への人権教育に生かす。(人権教育・同和教育推進委員会)	A	A	
6	(1)	実習授業にもものづくりの項目を多く取り入れ、その内容や成果を地域内外に公開する。(工業科)	A	A	A
		各種コンテストや技能競技大会等に積極的に参加することで、本校のものづくりに対する情熱的な取り組みを発信する。(工業科)	A		
		実習授業における指導を充実させ、技能検定(普通旋盤、フライス盤、機械組立仕上げ、機械検査、シーケンス制御、電気系保全、機械系保全、大工工事等)の合格率向上につなげる。(工業科)	B		
		各学科の特徴をより打ち出せるような魅力ある実習授業の探究を日々行う。(工業科)	A		
(2)	地域企業や関係機関と連携し、学校外における実習授業や、外部講師を招いた特別授業を展開し、高度な技能を身に付ける機会を設ける。(工業科)	A	A		
	工業教育フェスタ、体験授業等を通じ、本校の特色ある取り組みを地域内外に発信する。(工業科)	B			
	地元企業での就業体験における、現場での5Sの意義や重要性を、授業を通して指導する。(工業科)	A			
	インターンシップ等の事前・事後指導を通じて、生徒が地域の一員であることの意識を醸成するとともに、受入企業等の連携を進める。(2学年)	A			
成果		・進路指導部と各学年団で連携し、進路希望実現に向けたキャリア教育に取り組んだ。3年生は早期に就職内定を得ることができた。 ・基礎学力の定着を図るために生徒の学びが深まるよう授業改善と教え方を工夫した。 ・校内の成績評価規定を見直し、教員一人一人の指導と評価の一体化への意識が高まった。 ・地域に貢献する活動が進んでいることや、工業系コンテストの成績及び資格取得状況において一定の成果を得られた。 ・個々の評価は高いが、特色ある教育の推進に向け改善すべき点もある。	総合評価		
			B		